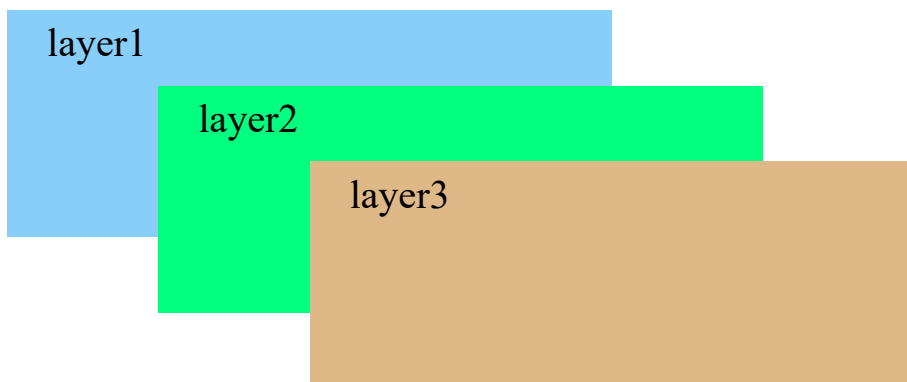


PDF 出力におけるレイヤ

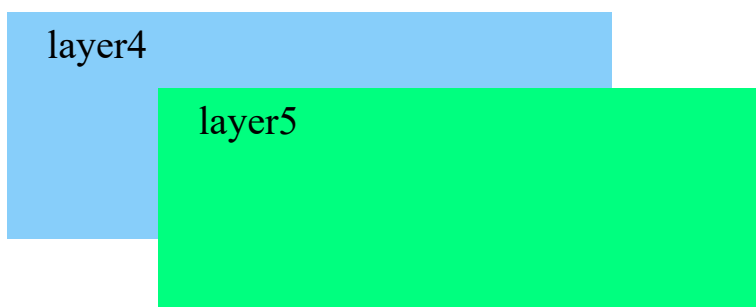
axf:layer-settings、axf:layer で PDF へレイヤを指定できます。fo:root に axf:layer-settings="layer1','layer2'" のように定義し、エリアをどのレイヤに配置するか axf:layer="layer1" のように指定します。指定できるパラメタは intent、view、print、export、lang、zoom、locked で順にレイヤのintent、表示、印刷、出力、表示する倍率、表示する言語、ロックを表します。文書を開いたときの初期状態などの指定も可能です。詳しくはオンラインマニュアルの「[axf:layer-settings](#)」をご参照ください。レイヤの指定は PDF1.5 以降、レイヤの locked は PDF1.6 以降で有効です。なお、このサンプルでは文書を開く PDF ビューアでレイヤパネルが表示されるように <axf:document-info name="pagemode" value="UseOC" /> を指定しています。

レイヤの指定例

layer1、layer2、layer3 を定義、fo:block-container にレイヤを配置した例です。



layer4 を ['layer4' intent view] で定義、layer5 を ['layer5' intent design] で定義しています。view (既定値) ではレイヤの表示、非表示の切り替えができますが、design 指定では切り替えができなくなります。intent の指定は Antenna House Formatter V6.5 から利用いただけます。



layer6 を ['layer6' view off] で定義、view が off のため初期状態でレイヤを非表示とする例です。

layer7 を ['layer7' view on print off export off] で定義、レイヤは表示されますが print と export が off のため印刷時や出力時には非表示にする例です。



layer8 を ['layer8' zoom 50% 100%] で定義した例です。zoom はレイヤを表示する倍率を指定します。値は順に最小値、最大値を表し、layer8 はビューアの倍率で 50% から 100% の範囲では表示され、それ以外の範囲では非表示になります。⁽¹⁾zoom の指定は Antenna House Formatter V6.5 から利用いただけます。

layer8

layer9 を定義、配置した fo:block-container 内の fo:block へ layer10 を定義、配置した例です。layer9 のレイヤを非表示にすると layer10 も非表示にできます。⁽¹⁾

layer9 (fo:block-container)

layer10 (fo:block)

layer11 を ['layer11' lang 'ja-jp' preferred locked] で定義、locked でレイヤの編集を無効にしています。lang は指定した言語とビューアアプリケーションの言語が一致すればレイヤを表示します。⁽¹⁾このサンプルでは lang 'ja-jp' のためビューアアプリケーションの言語が日本語であれば "layer11 (ja-jp)" が表示され、そうでなければ "en" が表示されます。

layer11 (ja-jp)

⁽¹⁾PDF/X、PDF/A、PDF/UA では、view、print、export の指定は無視されます。